

教室からスロープまで、老朽化した障害児施設を一新！

～APAEクルシランジア障害児施設改修計画～

日本の「草の根・人間の安全保障無償資金協力」により、ミナスジェライス州クルシランジア市のAPAEクルシランジア（障害児施設）に対し、施設の改善と拡張のための資金234,188.71レアル（当時約844万円相当）が供与され、この度その改修工事が完了、2016年2月16日、同施設にて供与式が行われました。

式典には、在リオデジャネイロ総領事館より近藤健首席領事、マリア・アリス・メロ・コエーリョAPAEクルシランジア会長、セルジオ・コエーリョAPAEクルシランジア名誉会長（クルシランジア貧民保護協会（ASSOPOC）会長）、前クルシランジア市長、ミナスジェライス州政府関係者、在ベロオリゾンテ名誉総領事事務所、施設関係者、施設利用者及びその家族など多数の方が出席しました。



APAEクルシランジア障害児施設改修計画とは

クルシランジア市はミナスジェライス州の州都ベロオリゾンテ市から南西70kmほどのところにある人口5千人ほどの町です。APAE（知的・身体障害者の親と友の会）は、知的障害又は身体障害をもつ子供たちの教育及び治療を行っているNGOです。APAEクルシランジアは、ミナスジェライス州クルシランジア市において、全国APAE連盟傘下の施設として障害児を受け入れ、教育活動、ワークショップ等を通じた職業訓練、心理カウンセリング、会話訓練等の活動を活発に行っています。この施設には、市内のみならず周辺の市からも多くの方が利用に訪れています。

しかしながら、これまでの施設は小さく、常時施設を利用できる子供の数には限界があるとともに、障害のタイプ、重度に応じた支援のニーズに応じきれっていませんでした。また、施設自体の老朽化が進んでおり、施設を利用する子供たちにとって不便を来していました。

そこで、老朽化した施設及び不衛生な状態を改善し、かつ130人ほどの待機児童の受け入れを可能とするために、施設の拡張及び補修工事を行いました。これにより、1階建てであった第2棟は2階建てに生まれ変わり、新しく広い教室が増えました。また、第1棟も内部の改修がなされ、洗濯場の設置、トイレや食堂の拡張がなされた他、鉄の扉だけだった窓には窓ガラスが貼られたり、ヒビの入った壁や天井はきれいに修復されました。さらに、屋外の老朽化して不便だったスロープもしっかりしたものに生まれ変わりました。

【施設改修の前後の様子】



第2棟



スロープ



教室



窓



天井・壁